

平成28年度 第3回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 平成28年10月26日(水) 16:00～17:20
- 場 所 とりぎん文化会館第3会議室(鳥取市尚徳町101-5)
- 出席者 高橋一委員、河原正彦委員、今井正和委員、若原道昭委員、岡部哲彦委員、林田英樹委員、渡邊良人委員[7名/10名]
山崎安造監事 [1名/2名]
- 欠席者 藤縄匡伸委員、山田憲典委員、吉田圭子委員、湯原裕子監事

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 平成28年度補正予算(第2回)について

理事長から、不足しているゼミ室を仮設整備する経費に係る平成28年度補正予算案件について説明があり、原案のとおり承認された。

(2) 翌年度以降の債務負担行為について

理事長から、複写機リースの複数年契約などに係る債務負担行為案件について説明があり、原案のとおり承認された。

(3) 平成29年度予算編成方針について

理事長から、平成29年度当初予算に係る編成方針について、公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会の評価及び対応する取組事項等について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・本日の協議事項となっている就学支援制度はこの予算編成方針に反映されているのか。
→ 県内出身学生への支援制度については、検討中であり、従来どおりのものを掲載している。
- ・施設整備費補助金が廃止になっているのはなぜか。
→ 大学の自主性を高めるため、昨年度から施設整備については大学の自己財源により対応することとされた。

3 協議事項

(1) 県内出身学生への就学支援制度について

理事長から、本学は、公立大学の中で、入学者に占める県内出身者の割合が極めて低いこと及び評価委員会からこのことについて指摘を受けていること等について説明があり、現在、検討している県内出身学生への就学支援制度について委員から意見を伺った。

<主な意見等>

- ・県内出身学生を増やすための試みとして県内出身者を対象とした生活支援施策に取り組むことについては賛成するが、外から学生に来てもらうということも重要であるし、どちらかという、卒業後、地元に着してもらうことの方が大切だと思う。
- ・実際に県内から入学している学生の意識調査を行ってみてはどうか。地元学生にとっては、

自宅から大学に通えることが魅力の一つであると思うが、県西部からは交通機関の問題から通学が難しいということがある。

- ・公立大学として地元学生が入学するということもあるが、全国から学生が集まってくることにより大きな役割の一つを果たしていると考える。
- ・公立化して大学が以前と変わってきている点を地元の学生や保護者に理解してもらう取り組みが必要だと思う。
- ・全国的に地元学生の授業料を減免している大学がないということは、入学時はおもかく、入学してからも差をつけることに抵抗があるからではないかと思う。

4 報告事項

(1) 近況報告

理事長から、入試実施状況、就職活動状況及び実験研究棟の供用開始など大学の近況について報告があった。

<主な意見等>

- ・平成27年度実績によると環境学部は大学院へ進学する者があるが、経営学部は少ないのはなぜか。また、経営学部から新研究科に進む者はいないか。
→ 環境学部は教職取得や環境関連の大学院に進学している。新研究科への進学については、本学は修士課程のみであることや専門職大学院のような教育を行っていないことから難しい面がある。

(2) 平成28年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画について

山崎監事から、平成28年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画について報告があった。

(3) 平成27年度公立大学法人公立鳥取環境大学業務実績評価について

理事長から、公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会による平成27年度業務実績評価について報告があった。

(4) 平成28年度第1回公立大学法人公立鳥取環境大学学長選考会議の概要について

副理事長から、先に開催された第1回公立大学法人公立鳥取環境大学学長選考会議の概要について報告があった。

5 その他

今後の審議会日程について報告した。第4回は1月20日（金）午前、第5回は、3月17日（金）午前に開催予定。

6 閉 会